

外務省

28/5

明治廿八年十一月四日

管第一六三二号

文書

三管 政務司

印

16

閣下 韓國所在航路標識維持ニ

陸軍省及海軍省ニ於テ韓國沿岸ニ設置セルル航路標識ハ當省ノ管理ニ移サレ及方夫、照會ノ次第モ有之候處右、韓國政府ニ引渡シ同國政府、於テ維持スル才得業ト被認テ向同國政府、交渉相成テ標識及此段及照會ヲ也

明治三十八年十月一日

逓信大臣大浦兼武

外務大臣男野村壽太郎殿

- 大和島燈臺 鴨綠江口
- 七發島燈臺 南岸
- 竹島燈臺 南西岸
- 巨文島燈臺 全上
- 牛島假設燈竿 濟州島附近
- 鴻島假設燈竿 巨濟島附近
- 蔚崎假設燈竿 蔚山港口
- 葛麻角假設燈竿 元山港

文書課長



抄

明治廿八年十一月七日發送

別紙

明治廿八年十一月七日

日 草

政務局長



主任



密

陸軍大臣

陸軍大臣

陸軍大臣

陸軍大臣

陸軍大臣

陸軍大臣

外務省

陸軍大臣

陸軍大臣

陸軍大臣

陸軍大臣

陸軍大臣

陸軍大臣

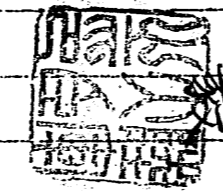
陸軍大臣

陸軍大臣

文書 2918 第

陸軍省

外務大臣伯爵桂太郎殿



陸軍大臣寺内正毅

韓國沿岸に設置せらる航路標識ヲ同國政府に
了度以維持せらる付標識送呈英二四号
取照念、趣異存無之と為虚信大臣申出、通、
計加成度此段及回答互也
明治三十八年十月十六日

陸軍省 函發第九。五一號

官房第四三四九號

明治三十八年十一月二十五日

一接
波野
定家

3-2211

0437

官書課長

事務

明治廿八年十一月廿二日

明治廿八年十一月廿二日

明治廿八年十一月廿二日

政務

主任

立脚

林之俊

韓正治官務院秘書長

坊之栗之

外務省

奉命出使

定議

議定

議定

議定

議定

議定

3-2211

0438

北記

此は、
西記次下、
抄載スル

外務省

3-2211

0439

明治卅八年十二月十八日接受

機密第二五四號

陸軍部に於て漢兵を科擧する
に依りて其の件

去月廿七日極密第一三八號より中城
ノ部員野田龍平ノ報告に依りて口説
信使の司名に於て吾國政府ヲ代表シ
少中城ハ韓國政府に於て引續
キ維持スル事同義あり而シテ其
方々吾國政府より其韓國に對シテ
任令派兵の事あり其ノ以テ其
了る程に於て其の事あり

在韓國日本公使館

明治卅八年十二月十八日

以上
以て其の件

外務大臣伯耆守桂吉印殿



文書課長

明治二十八年十二月二十日發送
明治二十八年十二月二十日發受

明治二十八年十二月十九日 起算
月十九日 發遣

政務局長

主任

坂田 伊

桂大臣

暹羅の文書に日附の次を添送す
暹羅大臣宛

機密

機密送第一九號

韓国沿岸航路標識

附送の文書に件

外務省

韓国沿岸航路標識維持の件
この案月廿日附送第一三一號の次を一應
及び回着書に附有る年表を回林
公使より在日英田顧問海軍務司
の名に於て韓国政府より代表の西
申越ハ燈臺ハ在政府に於て引揚
続不維持スルコトハ在成リ小旨ニ至シ

3-2211

0442

右引送方、全政府より各燈臺
に看守り、任事に遣はし、此方、其子、
ヲリスルコト、致度、各回答有之、
右様、内承、方、本、成、為、為、回、答
申、上、也

外務省

3-2211

0443

文書課長

明治廿八年十二月二十日發給
明治廿八年十二月十日發給

明治廿六年十二月十九日起草

廿月廿日發遣

主任

桂 大臣

運送 十二月十九日附ラビ子夜返送ト

陸海軍大臣

運送

機密

機密第九ノ號

韓北沿海航路標識

維持方針ニ関スル件

外務省

陸海軍大臣

貴省ニ於テ設ケル先韓國沿岸

航路標識維持方針ニ関スル件

十月日附滿蒙方九〇五二号官房

四三四九号ノ二ノ次ノ内回答ノ趣ニ從ヒ

林大臣及照会ニ奉一答右ノ旨回

目努田顧問臨時稅務司ノ名ニ於テ航

路改修ヲ代表シ懸ハ燈臺ヲ左改

3-2211

0444

府に於て引継ぎ難持多し、其成
旨を以て亦引継ぎの旨政府より各
燈臺に着穿り任命し流産し此
生手続に於て之を以て、新年度に於
ては之を回答有年、亦其様
に承知し候也

外務省

3-2211

0445

文書

明治廿九年一月八日

2

簿書校正

明治廿九年一月八日
同 日起草
日發達

政務局長

主任 坂田

14

送第 一 號

鶴本長官

次官

執事 松尾 龍彦 龍彦 龍彦

職 松尾 龍彦 龍彦 龍彦

執事 龍彦 龍彦 龍彦

持方 龍彦 龍彦 龍彦

甲 乙 龍彦 龍彦 龍彦

在 龍彦 龍彦 龍彦

龍彦 龍彦 龍彦

龍彦 龍彦 龍彦

3-2211

0447

必要ノ向ハ向テモ(或ルニ付
 向テ果シテ者等ノ式手続
 事ヲセシムル程ニ成ルベシ
 然レモ其ノ内ニ於テハ或ル
 尤ニ詳細ニ記録ヲ撰ニテ
 事上ニ為スル事ニ由リテ
 物等ノ於テ隨時ニ之ヲ使
 用スル事ニ由リテ

外務省

大凡ソト可有スルニ付此旨
 及行政ノ向テモ其ノ内ニ
 向テ果シテ者等ノ式手続
 事ヲセシムル程ニ成ルベシ

3-2211

0449

明治三十九年十一月二十二日

第百四十三号

陸軍省

第一八七三二号

陸軍省

龍書

陸軍省設置韓国鴨綠江航路
標本被認知交陸軍省に於て維持する方
に條件を附し引渡す事は可致す也
此等事力之を以て同國政府を以て
其の取扱度此致及思ふ也

明治三十九年十一月二十三日
逓行大臣 山本 伊三郎

外務大臣 寺野 武

卅九年十一月九日記録編纂

逓信省

逓信省印刷局印刷

3-2211

0450

陸軍省

一、	樺鐵係員の専任ナルモノニ限リ月下 ノモノツ相番給料ヲ以テ専用スルコト 又各係員ニ缺員ヲ生ジタル場合ニ於 テハ補充ニ関シテハ帝國陸軍省ハ 協議スルコト
二、	飛器編制料金ヲ徴収スル場合ヲ生ジ タルハ陸軍省ハ陸軍省ハ在リテ各 科金ヲ免スルコト
三、	現在ハ樺鐵ハ撤去セサルコト但し撤去 ノ必要アリトキハ帝國陸軍省ハ 議スルコト
四、	樺鐵ハ増加スルモノニテハ帝國陸 軍省ハ通報スルコト
五、	陸軍省ハ必要アリトキハ帝國陸軍省 専用ノ供スルコト

選 信 省

田原啓

3-2211

0451

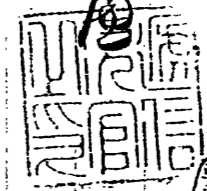
明治三十九年十一月七日
文書長

受領書
一七三三號

受領書
二一八六號

明治三十九年十一月七日

通官次及仲一也



外務省及陸軍省
照会

第一鴨緑江航路橋梁ノ築設ニ関スル
渡ノ保身ノ事ニ付テモ、第三〇六號四九
ノ趣了奉陸軍省及通官次仲一也
外務省ノ通官次仲一也ノ事、上ノ
外務省計書ニ付テ

四十年一月七日記録簿

3-2211

0454

手紙

陸軍省 滿蒙第四二師

明治三十九年三月廿五日

陸軍次官 石井新七

逕復以官印カ紙席取

贈録江小路探職ヲ韓國政府ニ引渡
 方ノ件ニ関シ別紙書ノ通り運輸部本部
 ノ達セシ候間特種方ニ取計申付
 上達テ前例ニ依リ特種方ニ取計申付
 送付シ来リルハ、尙有テ廻送方申付候
 件セテ取計申付候事
 選 信 省

逓信省印刷局印刷

3-2211

0455

一、標識係貨ハ其主在テ、限リ目下ノモリヲ相 當給料ヲ以テ雇用スルニテ、又右係貨ニ付、 負ク生々シシ場合ニ於ケル補完ニ関シテハ帝 子陸軍一省ニ協議スルニテ
二、航路運航料金ヲ徴収スル場合ヲ生々シルト キハ陸海軍ニ関スル船舶ニ在リテハ、右料金 ヲ免除スルニテ
三、現在ノ標識ハ撤去セサルニテ、但シ撤去ノ 必要アリトキハ帝國陸軍一省ニ協議スルニテ
四、標識ノ増加要更セシトキハ帝國陸軍一 省ニ通報スルニテ
五、軍事上必要アルトキハ帝國陸軍一省ノ專 用ニ供スルニテ

遞 信 省

逓信省印刷局活版工部印刷

3-2211

0457

明治二十九年十二月三日接取

外務省

統監第二四九二号

二〇五三九

等

本月八日付送第一四號ヲ以テ貴省
 大臣ヨリ統監官ヨリ照會有テハ陸軍
 省設置ノ鴨綠江航路標識ヲ韓國
 政府ノ讓渡ニ同政府ヲシテ之ヲ維持
 セルニ伴フ素意ノ条件ヲ以テ引渡
 方同政府一及交渉有テハ条件ニ依
 リ同政府ニ於テ保有一言者四章有テ
 其孰クハ福利後ノ時册及引渡手續
 順序至急申付テ今此段四章素

明治二十九年十二月六日

統監府

統 監 府

外務省

明治二十九年十一月廿八日

統監官 櫻井長吉 鶴原信吉



外務省 田中 敬

文書録

明治廿九年十二月五日

97

明治三十年十二月四日
同 月 五 日 發 遣

政務省
出

主任
107

14

山縣進信大臣宛

韓国移住江標持引

長方に及ぶ事

卅九年十二月六日

外務省

陸軍省設置、鴨綠江航
路標識、韓国政府、讓
渡、同政府、之ヲ維持也
此ノ件ニ就テ十月二十三日附
管第一四一三号ヲ以テ以
了、承右ニ統帥府、及
移牒、之、後、以、来、示、条

3-2211

0459

件ヲ以テ^{川後}同政府、交渉ノ始
 果同政府ヲ於テ右等件、
 依リ之ヲ保テ有可致旨回答ヲ
 得ルニ付、^{川後}、特別及
 多接納等至急承取方、
 左記官系^{長官}長官^{長官}
 樂有^{長官}長官^{長官}長官^{長官}
 外務省

外務省

何ハ、^{長官}長官^{長官}長官^{長官}
 田部^{長官}長官^{長官}長官^{長官}
 長官^{長官}長官^{長官}長官^{長官}

文書課長

明治三十九年二月二十八日

69

明治三十九年二月二十八日

政務局長

出

14

已

有

野田

田

外務省

野田

田

田

田

田

田

3-2211

0461

逕啓 政務局

明治四十年一月四日

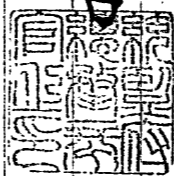
第二七四八号

受第 四五 號

鴨緑江航路標識ノ韓国政府へ引渡ノ件
ニ付同政府へ文書ヲ送附結果本月二十八日既
第ニ四五ニ号ヲ以テ及照會ヲ受候處今般
同政府財政顧問ヨリ別紙及、通リ申越候
條至急何令、核回報相成者此般及照會
修也

明治三十九年十二月廿六日

統監府總務長官鶴原定吉



外務次官珍田捨巳殿

統監府

官房發第四二號

陸軍省設置之韓國鴨綠江航路標識之韓
國政府ハ遺憾之同政府シテ維持セラルル件
ハ去年度ニ於ケル準備ノ都合モ有之事條
款ハ時及手續順テ等至急知
致候

且又前陳之如ク準備ハ計画可致候得共未
羊度即明治四十年四月ヨリ現状ヲ維持スル
為メハ之ニ必要ナル船舶及其他ノ器具ハ當
方準備成リ候迄一時借用シ要シ候
方ニ項至急其筋ハ後照會 初成度中候
及為依 於修也

明治廿九年十二月廿五日

統監府

韓國政府財政顧問日賀田種太郎

既並有總務長官鶴原定吉内示

文書課

明治四十年一月十四日接

67

148

明治四十一年一月十四日
同日
一月廿二日
政務局長
日發油

山

主在
124

要旨付

明治四十一年一月十四日
選第

五

珍自次官

窪多總務長官宛

鴨綠江航路標後

引後ニ関スル件

外務省

鴨綠江航路標後引後方

清朝中領事官ニ関スル各航

廿六日附院發第ニ七四八号

ヲ次ニ再表スルニ越ノ趣

了承ルルニ本官ナリ

日附院發第ニ四九二号
北書信封前掲貴信上

3-2211

0465

行 達 乙 申 十 月 二 十 八 日 附 美

第 二 五 〇 号 三 次 下 有 事 由 書 長

中 進 五 乃 海 外 船 隻 大 概 二 枚 下 付 件 由 出 行 上 考 本

年 上 旬 有 事 由 書 長 下 付 件 由 出 行 上 考 本

備 地 之 於 心 或 海 外 船 隻 大 概 二 枚 下 付 件 由 出 行 上 考 本

及 第 三 十 七 号 申 十 月 二 十 八 日 附 美

第 三 十 七 号 申 十 月 二 十 八 日 附 美

第 三 十 七 号 申 十 月 二 十 八 日 附 美

外 務 省

3-2211

0466

19

政務局 閱了

拜復

鴨緑江航路標識

引継書一通送付

解り申す實國境

付返戻房改右及矣

答書也

早年
青島 通信者

仲小路次官

外務省

珍田次官殿

3-2211

0467

明治四十年四月廿二日接覽 奉 管 政務局

統發第一八五八号

受第六〇一〇號

晨ニ御照會有之美鴨緑江航路標識
韓國政府、引渡濟ニ付、若年十二月二十八
日付送第二五〇號御回答追書ノ趣、依
リ別紙引継書迄通及送付美条御落
手相成度事也

明治四十年四月十八日

統監府總務長官 鶴原定



外務次官 珍田捨己殿

軍

官

大臣

大臣

3-2211

0468

福島

一 韓國鴨綠江航路標識引継書
右、別紙引渡條件ニ基キ授度ラ了

明治四十年三月一日

陸軍運輸部 舘岩浦出張所長

引渡人 福島 知雄

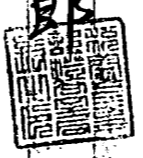


光武十一年三月一日

韓國統稅務司所管

税關工事部 燈臺局長

引渡人 竹田 関太郎



税關工事部

十二 小 蒸 汽 船 貸 與 中 故 障 生 じ 使 用 二 堪 へ せ ぬ 場 合 三 陸 軍 運 輸 部 龍 巖 浦 出 張 所 二 於 け 支 障 ナ キ 限 り 一 時 代 船 ヲ 貸 與 ス ル コ ト ア ル へ し 但 し 其 費 用 ハ 韓 國 政 府 ノ 支	辦 ト ス 稅 關 工 事 部	十三 本 年 解 氷 後 浮 標 設 置 ノ 節 ハ 未 多 處 隻 ヲ 貸 與 し 又 韓 國 政 府 ヨ リ 團 平 船 ヲ 龍 巖 浦 二 回 航 ス ル 途 ハ 團 平 船 處 隻 ヲ 貸 與 ス ル コ ト 但 し 其 費 用 ハ 韓 國 政 府 二 け 支 辦 ス ル モ	十四 韓 國 政 府 鴨 綠 江 航 路 標 識 用 小 蒸 汽 船 二 故 障 生 じ 夕 々 場 合 ハ 實 費 ヲ 徵 收 し 陸 軍 運 輸 部 龍 巖 浦 出 張 所 ノ 工 場 二 於 け 修 繕 ノ 便 宜 ヲ 供 フ ル コ ト	十五 韓 國 政 府 仁 川 瓦 斯 製 造 所 竣 工 マ	十六 韓 國 政 府 新 造 ノ 小 蒸 汽 船 龍 巖 浦 へ 回 航 途 ハ 運 輸 部 ノ 小 蒸 汽 船 ヲ 貸 與 ス ル コ ト 但 し 船 隻 ノ 給 料 一 丙 表 其 他 ノ 費 用 ハ 貸 與 ノ 日 ヨ リ 韓 國 政 府 ノ 費 用 ヲ 以 け 支 辦 ス ル コ ト	十七 韓 國 政 府 ノ 費 用 ヲ 以 け 設 置 ス ル コ ト
--	--------------------	--	--	--------------------------------	---	---------------------------------------

其、三月十五日以後、錨地以外に浮
 標ヲ設置シ、船舶ノ入港ニ差支ナ
 キ如クスルコト若シ止ムヲ得サ
 ルトキハ同日以後ハ水先ヲ附セ
 ラレタキコト
 志、大東溝ニ通スル濠、筋及錨地以外
 ニ必要ノ際ハ臨時浮標ヲ設置セ
 ラレタキコト

税關工事部

甲表 瓶路標識材料負数表

名	称	負数	名	称	負数
鐵製	浮標	五個	鋼線鋼	周長四十五尺	貳六房
合用	冠標	五個	瓶路示導標		壹九本
合用	心棒	五個	十字形木製浮標		壹〇個
合用	冠標拾	五個	片口換翅		四個
鐵鎖	長拾貳分	六房	釵		壹個
合	長拾貳分	六房	石錨		四個
合	長拾貳分	三房	瓦斯浮標	附屬品及	壹個
合	長拾貳分	壹房	兩口換翅		壹個
轉環	長拾貳分	六個	栓板		貳個
木製	浮標	壹個	木換翅		壹個
重量	(ニクリート)	壹個			

税關工事部

乙表 鴨緑江瓶路標識引継人負及給料表

名	称	姓	名	月額	年額
鴨託	三浦義深	月額貳百參拾五圓	貳千八百貳拾圓		
雇負	柳村楠樹	月額六拾圓	七百貳拾圓		
雇負	竹本伊三吉	日額壹圓五拾錢	五百四拾七圓		
雇負	友田順作	日額壹圓五拾錢	五百四拾七圓		
雇負	今村淳太郎	日額壹圓貳拾錢	四百參拾八圓		
計	六名		五年七百九拾貳圓		

備考 雇負御學藏、豫備役工兵曹長ニテ三十七年已從泊揚司令部以東鴨緑江瓶路標識係ノ助手ニシテ目下尚舊所ニ在動中凡モ百百集解除セラル、若依テ右集解除ノ上ハ雇負トシテ使用ス

本表ノ給額ハ舍宅料ニ在存ス

丙表 小蒸汽船之負給料表

名称	姓	名	月給額	年料額
船長	相澤	吉松	六拾圓	七百貳拾圓
機師	大内	權六	五拾叁圓	六百叁拾六圓
取	藤井	松太郎	叁拾七圓	四百四拾四圓
油差	沢	安藏	叁拾七圓	四百四拾四圓
火夫	平岡	三代吉	叁拾叁圓五拾錢	四百貳圓
火夫	是枝	末太郎	叁拾五圓	四百貳拾圓
水夫	岡本	慶次	叁拾叁圓	叁百九拾六圓
水夫	塩村	寛查	叁拾貳圓	叁百八拾四圓
水夫	河原	喜六	貳拾八圓五拾錢	叁百四拾貳圓
計	九名	差	百拾九圓	四千百八拾八圓

備考 乗組員八多少要動スルコトアルモ給料ハ本表ヲ準テトシ大差十千見込

税關工事部